

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
農食環境学群	循環農学類	夜・通信	79	128	220	427	13	
	食と健康学類 (管理栄養士コース除く)	夜・通信			85	292	13	
	食と健康学類 (管理栄養士コース)	夜・通信			51	258	13	
	環境共生学類	夜・通信			94	301	13	
獣医学群	獣医学類	夜・通信			105	184	19	
	獣医保健看護学類	夜・通信			39	118	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/22101100/1f85efd3f9e7f23afa53c2a2b1a5153d.pdf</p> <p>大学HPの「情報公開」>「授業科目に関すること」>「科目ごとの目標等」>「実務経験のある教員等による授業科目一覧」をクリック。</p> <p>各科目のシラバスは、シラバス照会画面から以下により確認できます。</p> <p>(1) 大学HPのTOP画面で、「情報公開」→「授業科目に関すること」の「科目ごとの目標等」→「シラバス」をクリック</p> <p>(2) ログイン画面にある「シラバス照会」をクリック</p> <p>(3) 「Menu」の「シラバス照会」をクリック</p> <p>(4) 開講開始年度を「2020」と指定し、キーワードに「実務経験」と入力、または科目名称欄に「実務経験のある教員等による授業科目一覧」にある科目名称を直接入力して、検索する。</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人酪農学園のHPにて公表
<https://gakuen.rakuno.org/organization.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職：札幌つづみ星法律事務所・弁護士	2019.7.1～ 2022.6.30	法務
非常勤	現職：株式会社エクサネット HAL 代表取締役会長	2019.7.1～ 2022.6.30	I C T
非常勤	現職：株式会社町村農場代表取締役	2019.7.1～ 2022.6.30	経営
非常勤	現職：ノーザンファーム代表	2019.11.26～ 2022.6.30	教育連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>作成過程</p> <p>シラバスにおいて、講義概要、到達目標、各回の授業内容、成績評価の方法、基準、準備学習の内容や目安となる時間についての指示、教科書・参考文献、履修条件、15回の授業の進め方を明確に示すようにシラバス記載要領を作成しています。記載要領については、教務委員会において内容を確認するとともに、各学類からの委員が学類会議等で説明をしています。</p> <p>さらに、シラバス作成方法に関するFD研修会において、その記載内容について詳細な説明会を実施しています。また、公表前に、第三者によるシラバスチェックを実施し、記載要領の条件に満たさないシラバスについては、修正を指示しています。</p> <p>以上の取り組みにより、一定の内容を記載しているシラバスをポータルにおいて公表しています。</p> <p>作成・公表時期</p> <p>1月上旬～2月上旬 シラバス作成依頼</p> <p>2月上旬～3月上旬 第三者によるシラバスチェック</p> <p>3月中旬 シラバス修正完了</p> <p>4月上旬 HP等で公表</p>	
授業計画書の公表方法	https://unipa-ap.rakuno.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目における学習成果の評価については、シラバスにおいて「評価項目」および「その割合」、「成績評価の基準」について明記することとしています。とりわけ、厳格かつ適正に評価するために、複数の評価項目がある場合は「総合的に評価する」ではなく、各評価項目の割合(%)を明示することとしています。</p> <p>履修の認定および成績評価、授業の出席状況について、ポータルを利用し、厳格に教育センター教務課において管理をしています。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、履修規程において以下のように厳格な基準を設定しています。</p> <p>合格＝S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、 不合格＝D（59点以下および試験欠席）、×（受験不可）</p> <p>また、GPA制度を導入し、教育指導において活用しており、指標設定については履修ガイドで公表しています。</p> <p>全履修科目の成績の平均値を表したGPA（Grade Point Average/グレード・ポイント・アベレージの略）は、各履修科目のグレード・ポイントに科目の単位数を乗じた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の単位数の合計で除したものであり、次の計算式によって算出します。</p> $\text{GPA} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得たグレード・ポイント})] \text{の総和}}{\text{履修科目単位数の総和}}$ <p>なお、成績の分布状況については、学生への公表には至っていないが、内部資料として作成し、基盤教育運営委員会など各種教務関係の委員会において教職員間の教育指導に活用しています。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html 1
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定に関する方針については、学則および履修規程、学位規程を定めており、公表方法として履修ガイドおよびホームページに記載しています。適切な実施のために、詳細な資料を基に、学類会議および教授会において審議しており、適切に実施しています。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html 1

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	酪農学園大学
設置者名	学校法人 酪農学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html
財産目録	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html
事業報告書	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html
監事による監査報告(書)	https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.rakuno.ac.jp/outline/action-plan.html https://www.rakuno.ac.jp/wp-content/themes/rgu/file/evaluation_jihe.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 農食環境学群
教育研究上の目的（公表方法： https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2019/10/15130210/purpose_of_university.pdf ）
（概要） 農食環境学群は、酪農学園創立の基本精神に基づき、生物資源の循環・再生、食料の生産・加工及び流通・消費並びに食と健康、さらに農業を含めた環境に関する専門分野において、それらが有機的に関連するよう体系づけられた学群であり、農学とその関連科学の教育・研究によりフードシステムの持続的発展と自然環境の保全並びに農食文化の進展に貢献することを目的とする。 （1）循環農学類は、農業を基礎科学的かつ実践的に探究し、社会における農業の意義を正しく理解し、安全な食料の持続的供給を可能とする資源循環型農業を実現するための幅広い知識と技術を修得した人材を養成する。 （2）食と健康学類は、本学の基本理念である実学教育を通して、食の生産、加工・製造、流通ならびに健康に関する幅広い知識と技術を修得するとともに、食と健康に関する総合的な判断力を培い、社会に貢献できる人材を養成する。 （3）環境共生学類は、環境に関する基礎科学の学びと実践的な学びを通して、現象を客観的に解析する技術や知識を修得するとともに、問題解決に向けた総合的な判断力を培い、自然と人が調和・共生する社会の形成に貢献できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.rakuno.ac.jp/outline/educationpolicy.html ）
（概要） 農食環境学群では、健土健民および循環思想のもとで持続的な社会の発展に寄与する人物の育成を使命としている。そのために、専門基礎教育と専門分野の学問体系について座学、実験、実習を通して専門的知識と技術を修得し、課題発見と解決する能力を身につけ社会に貢献できる人物の輩出を行なう。 〔循環農学類〕 所定の単位を取得し、以下に掲げる能力を身につけた学生に、農学分野の学位を授与する。 ① 建学の精神を踏まえ、循環型社会を実現するための広範な知識と課題を認識する能力。 ② 食料生産現場における実践的農学教育に基づく、現場感覚を活かした課題解決能力。 ③ 農学・畜産学・農業経済学に関する専門的な方法論や知識・技術の習得を通じた、総合的思考力や判断力により社会に貢献できる能力。 〔食と健康学類〕 所定の単位を取得し、以下に掲げる能力を身につけた学生に食品学の学

位を授与する。

- ① 本学の建学の精神を理解し、自然、社会に関する基本的な知識を体系的に理解できる力。
- ② 各コースの専攻教育により、主体的な行動に裏付けられた現場感覚を体得し、専門的知識と技術を理解できるとともに、適切な自己管理と意見発信により他者と協働することができる力。
- ③ 基盤教育と専門教育を通して修得した知識、技能、経験等を総合的に理解し、卒業後も自律的に学習し、自らの課題の発見・設定と課題解決に取り組むことができる能力。

〔食と健康学類・管理栄養士〕

所定の単位を取得し、以下に掲げる能力を身につけた学生に食品学の学位を授与する。

- ① 建学の精神を理解し、自然、社会に関する基本的な知識を体系的に理解できる力。
- ② 専攻教育ならびに実習施設等における教育により、主体的な行動に裏付けられた現場感覚を体得し、専門的知識と技術を理解できる力。
- ③ 基盤教育と専門教育を通して修得した知識、技能、経験等を総合的に理解して、卒業後も自律的に学習し、自らの課題発見・設定と課題解決に取り組むことができる力。
- ④ 管理栄養士に求められる専門家としての高い使命感・倫理観をもち、適切な自己管理と意見発信により異なる職種の専門家と協調して職責を果たすことができる力。

〔環境共生学類〕

所定の単位を取得し、以下に掲げる能力を身につけた学生に、環境学分野の学位を授与する。

- ① 建学の精神を踏まえ環境共生型社会を実現するための広範な知識を習得し課題を認識する能力。
- ② 地域社会、国際社会をフィールドとした実践的な教育により現場感覚を体得し、様々な地域での環境問題の本質を見極めるとともに今後の課題を解決する能力。
- ③ 自然科学と人文社会科学が融合した総合的思考力・判断力を習得することにより社会に貢献できる能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/outline/educationpolicy.html>）

〔循環農学類〕

専門基礎科目から、循環を基本とした農学・畜産学・農業経済学の体系的学習のために提示した履修モデルを参考に、専門コースごとの基礎となる科目を選択する。また、学外農場実習等を通して実社会に向き合う能力を養うことを奨励する。専門教育科目には、農学・畜産学・農業経済学に関する専門的な方法論や知識・技術を体系的に習得するために、専門共通科目、コース専攻教育科目および学類教育科目を設置している。これらの科目毎に教育目標を示し、到達度を評価する。

〔食と健康学類〕

基盤教育により、本学の歴史や使命を学ぶとともに、専門教育科目を学ぶ

ための基礎的素養を身につける。専門基礎教育として、食品科学領域を中心とした科目を学び、専門教育に必要な知識を修得する。各コースの専門教育では講義、演習ならびに実験、実習、卒業論文を通してより高度な専門的知識と技術を学びながら、それらを活用する能力を養成するとともに、課題の発見、設定ならびに解決する能力を養成する。

〔食と健康学類・管理栄養士〕

基盤教育により、本学の歴史や使命を学ぶとともに、専門教育科目を学ぶための基礎的素養を身につける。専門基礎教育として医学、食品学および栄養学分野の科目を学び、専門教育に必要な基礎学力を養成する。専門教育では講義や演習ならびに実験、実習を通して管理栄養士として実際の現場に必要な知識や技術を身につけ活用できるような能力を養成する。さらに、臨地実習や演習、卒業論文を通してこれまでに修得した知識、技術、経験をもとに管理栄養士として活動できるための総合的な実践力を養成する。

〔環境共生学類〕

専門基礎科目にて、地球の生命圏と環境の調和の本質を理解し、その調和が人類の文明活動によってどのように損なわれつつあるかを科学的に理解する思考力を養成する。専門教育科目では、人間が野生動物、生命環境と共生していくための知恵と技術を追求し、環境情報の解析と実践的なコミュニケーション能力を高めつつ、地域社会、国際社会をフィールドとして現場教育を実験・実習科目の中で展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.rakuno.ac.jp/outline/educationpolicy.html>）

〔循環農学類〕

循環農学類は農業を取り巻く実社会に対応するため、文理融合した学類であり、循環型社会の実現に向け、実践的活動ができる人材の養成を目的とする。自然科学のみならず人文社会科学も含めた総合的な視野で実社会を客観的にとらえ、農学・畜産学に関する知識や技術を活かして人類社会に貢献したいという意欲と主体性を持って、社会の様々な人々と協働して学ぶことができる人物を求める。

〔食と健康学類（食品機能科学・食品開発学・食品流通学コース）〕

これらのコースは「健土健民」の教育理念に基づき、食の生産、加工、流通、ならびに人の健康を通して、人々の食の喜びと健康の維持・増進に貢献できる人材の養成を目的とする。これらのコースでは自然科学を基礎として社会科学を含めた総合的な教育課程を編成しているため、入学者はこれらの科目の基礎的知識を習得していることが望ましい。食に関わる課題の多くが複合学問領域に位置することを理解し、その社会科学的な側面に自然科学を基礎として対応するための表現力や判断力を養い、他者と協働して社会貢献に努めることができる人物を求める。

〔食と健康学類（管理栄養士コース）〕

管理栄養士コースは、「健土健民」の教育理念に基づき、食と人を繋ぐ食品科学、栄養学ならびに基礎医学を修めた国家資格としての「管理栄養士」

の養成を目的としている。本コースでは自然科学を基礎とした教育課程を編成しているため、入学者は関連科目の基礎的知識と思考力を習得していることが望ましい。栄養、健康ならびに社会環境から人体への関わりに至るまでを包括して学び、食と栄養の専門職である管理栄養士としての表現力や判断力を養い、主体性をもって他者と協働しながら、食を介して社会貢献に努めることができる人物を求める。

〔環境共生学類〕

環境共生学類は、地球環境の中で長い歳月をかけて形成されてきた様々な循環システムと、その循環システムが育ててきた人間と野生動物をはじめとする生命圏の調和ある共生社会の実現を目指す人材を養成する。人類がその文明生活の中でもたらしたその調和のほころびを修復し、人間が野生動物、そして生命環境と共生していく英知を学び、さらに環境情報の技術を用いて国際社会、地域社会の中で環境問題を解決する意欲のある人材を求める。

学部等名 獣医学群

教育研究上の目的（公表方法：https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2019/10/15130210/purpose_of_university.pdf）

（概要）

獣医学群は、酪農学園創立の基本精神に基づき、獣医学、獣医保健看護学とその関連科学の総合的な教育・研究により、生命・自然を尊ぶ豊かな人間性を育み、人類と動物の福祉及び動物・人・環境の調和と共存に具体的に貢献するための学群であり、専門知識・技術及び総合的な判断力を有する人材を養成し、国際的視野に立って動物と人の健康保持と食料の安定供給及び環境保全に寄与することを目的とする。

（１）獣医学類は、獣医学及びその関連分野における高度な知識と技術を修得し、実践的な産業動物、伴侶動物、公衆衛生関連獣医師を育成し、わが国の獣医療や食の安全及び動物の福祉ならびに生命科学における先端的研究を推進できる人材を養成する。

（２）獣医保健看護学類は、獣医学に関する基礎知識と動物看護学に関する専門知識を修得させ、動物栄養、動物行動及び動物理学療法に関する高度な教育を行い、幅広い獣医保健看護領域の業務を担える人材を養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/outline/educationpolicy.html>）

（概要）

獣医学群は大学設立の理念に基づき「社会に貢献できる大学」を主眼におき、社会的ニーズの高い分野で活躍できる人材、獣医師ならびに動物看護師としてチーム獣医療を担う質の高い実践能力を備えた「高度職業人」としての人材ならびにそれぞれの分野や地域においてリーダーとして活躍できる獣医療従事者を社会に送り出す。

〔獣医学類〕

以下の能力を身につけ、豊かな知性と人間性を持ち、「人と動物を取り巻く環境との相互的な関連の重要性」を獣医師として社会に発信できる人材に対し学位を授与する。

- ・獣医師の社会的責務を果たすための使命感、倫理観、責任感、コミュニケーション力を修得する能力。
- ・学際的な視点を持ち、物事の本質を見通す洞察力、先見力、創造力、応用力を修得する能力。
- ・科学的な根拠を基礎とし、世界的な視野で人間社会の健全な発展に寄与でき、さまざまな情報を統合して、的確な判断を行い、必要な行動ができる能力。

〔獣医保健看護学類〕

豊かな人間性と動物に対する愛情を持ち、高度な知識とチーム獣医療を担う高い実践能力を備えた動物看護師および動物看護学教育分野において動物と人間が共存できる社会の創出に貢献でき、今後の日本の動物看護学を支えていこうとする意欲のある人材に対し学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://www.rakuno.ac.jp/outline/educationpolicy.html>）

（概要）

1年次では、建学の精神を理解し豊かな人間性と知性を育むために、全学共通カリキュラムの基盤教育を実施する。また、獣医師、動物看護師として必要な職業の理解、倫理観、生命観および使命感を養う。1年次からの専門基礎教育では、物事を多角的捉えることができる学際的な視点を養う。専門教育科目、専修教育科目ではそれぞれの学類での専門知識・技術及び総合的な判断力を涵養すると共に自ら課題を探求し、その課題解決に対して幅広く、柔軟かつ総合的な判断力を醸成し答えが出ない問題に取り組むための基礎的な力を身につける。

〔獣医学類〕

新たな知の創造につながる獣医学専門教育を積み上げ、問題を解決する能力を養い、指導的な役割を果たしうる人材を育成する。研究や討論を実践的に積み上げる学生参加型の授業および実習を充実し、教養と豊かな人間性、国際的感覚、強固な責任感と高い倫理性を取得する専修教育を実施する。

〔獣医保健看護学類〕

専門基礎科目では、動物の形態機能および感染症を理解するために生体機能学、病原体に関わる基礎知識を習得する。専門科目では、臨床を含む獣医療の関連科目ならびに公衆衛生学を学ぶとともに動物看護に関する専門的な知識・技術を体系的に習得し、学内外での実習で実践することでそれらを深化させる。最終年次には、将来を考え自らの専門性を確立していくために大学独自教育として動物看護師が今後その役目を担っていく動物行動学、栄養学、理学療法及び生産動物看護学分野での基礎と応用を学び、社会

で即戦力となる人材を育成できるカリキュラムを展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.rakuno.ac.jp/outline/educationpolicy.html>）

（概要）

獣医学群が求める人材は建学の理念を理解し、獣医学群の教育目的を遂行できる人物である。

〔獣医学類〕

獣医学類は、国際通用性を基本とした獣医学及びその関連分野における高度な知識と技術を修得し、国内外の迫り来る諸問題を解決できる能力を具備する獣医師の育成を目的とする。また、本学類は、社会に対する幅広い視野を有し、地域や地球レベルでの人と動物との調和すなわちワンヘルスに深い関心を持ち、日々進歩する最新知識を吸収できる基礎学力を有し、生涯にわたり自己学習意欲を持ち、人間社会に貢献する高い志を持つ人材を求める。

〔獣医保健看護学類〕

獣医保健看護学類は、高いレベルで動物看護師の知識・技術を教授し、広く基礎生命科学分野、公衆衛生分野および動物医療（伴侶動物、生産動物等）分野で活躍できる人材の養成を目的とする。それ故、大学設立の基本理念・教育目標を理解し獣医保健看護学とその関連分野で能動的に学習を行うことができ、動物・人間とふれあうことの実践を通じて生命を尊ぶ豊かな感性を育み、動物の良き理解者として人類と動物の福祉に貢献し、人間と動物の良き関係を築き上げていきたいという目的意識をもつ人材を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/outline/about/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
農食環境学群	—	56人	32人	7人	4人	7人	106人
獣医学群	—	25人	19人	9人	6人	4人	63人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		93人					93人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://souran.rakuno.ac.jp/search/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>酪農学園大学FD委員会を設置し、授業アンケート実施、FD研修会の開催、教育環境改善を目的とする教職員と学生の意見交流活動など、規程に基づく全学的FD活動に取り組んでいます。</p> <p>〔授業アンケート〕</p> <p>原則すべての科目（履修者が20名以下と想定される一部の科目（専門ゼミナールなど）を除く）を対象に全学統一の授業評価アンケートを実施しています。学生の授業に対する意識や取り組み方を調べ、その結果を教員へフィードバックし、改善点について担当者より報告させ、授業改善を目的とします。また、学生が授業選択の参考になるように実施結果を開示しており、教員には「検討事項調査票」の提出を依頼している。FD委員会にて集計し、授業改善のポイントをFD委員より教授会で報告を行っています。</p> <p>〔FD研修会の開催〕</p> <p>FD委員会の中で担当者を決めて、年に2回程実施しています。また、北海道地区FD・SD推進協議会総会及び共同企画、京都で開催されるFDフォーラムなどの学外の研修会にもFD委員を中心に参加しています。</p> <p>〔学生と教員との対話集会〕</p> <p>教育環境改善を目的に教職員と学生の意見交流の機会として、「学生と教員との対話集会」を年1回（毎年12月頃）開催しており、学長・学群長・教育センター長・FD委員長等が出席、学生と直接意見交換を行っています。</p> <p>〔投書箱〕</p> <p>学内に設けられた6つのポストに、学生が教育に関することから学生生活に係ることまで意見を投書できるようになっています。投書された内容は、FD委員長から学群長や担当部署に伝えられ、掲示板等を活用して学生に回答しています。2018年度より投書箱のメール版も開設しています。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
獣医学部	-	-	-	-	1人	-	-	-
農食環境学群	520人	576人	110.8%	2,100人	2,313人	110.1%	若干名	8人
獣医学群	180人	208人	115.6%	940人	1,106人	117.7%	若干名	2人
合計	700人	784人	112.0%	3,040人	3,420人	112.5%	若干名	10人

(備考) 獣医学部は学生募集停止、修業年限を超えて在籍する学生のみ。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
獣医学部	1人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (100%)
農食環境学群	547人 (100%)	16人 (2.9%)	475人 (86.8%)	56人 (10.2%)
獣医学群	187人 (100%)	4人 (2.1%)	155人 (82.9%)	28人 (15.0%)
合計	735人 (100%)	20人 (2.7%)	630人 (85.7%)	85人 (11.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスにおいて、講義概要、到達目標、各回の授業内容、成績評価の方法、基準、準備学習の内容や目安となる時間についての指示、教科書・参考文献、履修条件、15回の授業の進め方を明確に示すようにシラバス記載要領を作成しています。</p> <p>記載要領については、教務委員会において内容を確認するとともに、各学類からの委員が、学類会議等で説明をしています。さらに、シラバス作成方法に関するFD研修会において、その記載内容について詳細な説明会を実施しています。</p> <p>また、公表前に、第三者によるシラバスチェックを実施し、記載要領の条件に満たさないシラバスについては、修正を指示している。以上の取り組みにより、一定の内容を記載しているシラバスをポータルにおいて公表しています。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各授業科目における学習成果の評価については、シラバスで「評価項目」および「その割合」、「成績評価の基準」について明記することとしています。</p> <p>とりわけ厳格かつ適正に評価するために、複数の評価項目がある場合は「総合的に評価する」ではなく、各評価項目の割合(%)を明示することとしています。履修の認定、成績評価および授業の出席状況については、ポータルを利用し、教育センター教務課において厳格に管理をしています。</p> <p>卒業認定に関する方針については、学則および履修規程、学位規程を定め、履修ガイドおよびホームページで公表しており、適切な実施のために詳細な資料に基づき学類会議および教授会において卒業認定を行っています。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
農食環境学群	循環農学類	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	48 単位
	食と健康学類	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	48 単位
	環境共生学類	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	48 単位
獣医学群	獣医学類	207 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	48 単位
	獣医保健看護学類	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：農食環境学群 https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/22100257/55d7a1127bf92de65f11d60859a75fee.pdf 獣医学群 https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/22100257/55d7a1127bf92de65f11d60859a75fee.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 授業評価アンケート結果		

<https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose/evaluation.html>

2016～2019 年度酪農学園大学における学生の学習成果及び学び・学力に関するアンケート

https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/rakuno.ac.jp/wp-content/uploads/2019/10/15130151/questionnaire_2016-2019.pdf

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/access.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
農食環境 学群	循環農学類	890,000 円	200,000 円	350,000 円	実験実習費 施設設備費
	食と健康学類				
	環境共生学類				
獣医学群	獣医学類	1,710,000 円	300,000 円	480,000 円	実験実習費 施設設備費
	獣医保健看護 学類	920,000 円	200,000 円	400,000 円	実験実習費 施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組					
<p>(概要)</p> <p>[学生担当教員 (アドバイザー制度、研究室指導教員体制)]</p> <p>学生一人ひとりへのきめ細かな支援を行うため、入学時より学生ごとに「学生担当教員」を配置し、学生のあらゆる活動をサポートしています。学生担当教員は、学生のニーズを理解し、学生の資質や可能性を最大限に引き出すよう務めており、修学上や学生生活における問題や悩み・進路等について積極的な相談できる指導体制をとっています。学生担当教員は学年によりアドバイザーと研究室指導教員に区分されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーは、入学時から専門ゼミ移行時まで担当。 ・専門ゼミ移行後は所属の研究室指導教員 (獣医学類はユニット指導教員) が担当。 					
学類	1 年	2 年	3 年	4 年	5・6 年
循環農学類	アドバイザー		研究室指導教員		
食と健康学類	アドバイザー		研究室指導教員		
環境共生学類	アドバイザー		研究室指導教員		
獣医学類	アドバイザー			ユニット指導教員	
獣医保健看護学 類	アドバイザー		研究室指導教員		
<p>[オフィスアワー]</p> <p>教員が学生からの質問や相談を受けるために研究室に在室している時間帯を設定しています。出張や会議で不在の場合を除き、オフィスアワーとして定められた時間は教員が研究室に在室して学生の質問や相談に応じています。授業に関する質問、学校生活、進路等、先生に相談したい場合に積極的な活用が可能となっています。なお、非常勤講師については、授業の前後に教室や非常勤講師室で相談の受け付けが可能です。</p> <p>[学習支援室]</p> <p>自発的な学びを尊重し、初年次教育の基礎となる英語、数学を中心に、3</p>					

名の専門の先生が常駐し、リメディアル教育の支援及び相談を希望する学生に対応しています。

- ・学習に関わる相談、大学生活に関わる相談、悩みごとの相談など人生経験の豊富なスタッフが相談に応じています。
- ・大学での講義は、高校までの授業内容が理解されていることを前提に行われますが、入学前の学習環境により学力に個人差があり、学習支援室では苦手な分野の克服を含めそれを補うことができ、その後の大学の講義がより理解できるようになります。
- ・資格取得や就職試験を突破するために必要な基礎学力の支援策として、年間に4回SPI対策講座を実施しています。

[教職センター]

教職を目指す学生に対して学習指導・支援を行っているほか、教員採用試験に関する情報の提供、特別講義や研修の企画・実施を通して、教員を目指す学生たちの学びを全面的にバックアップしています。

また、担当教員による教職に関する授業に加え、学生による模擬授業の実施や教員採用試験を目指した自習等のための教職多目的演習室、ならびに理科教育の指導・教育・訓練のための観察・実験に対応できるよう、教職理科実習室を設置しています。さらに、教職課程室には事務職員が常駐して各種教科書、教育関連図書や資料等の閲覧・貸出に対応しており、教職を目指す学生たちの学習ニーズにきめ細やかに対応しています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

キャリアセンターでは、学生が高い目的意識を持ちながら、人生観や職業観を養い、的確な進路や職業の選択が果たされるよう学生の希望に沿ったキャリア支援を行っています。具体的には、3年次（獣医学類5年次）に個人面談を全ての学生と行うことで、一人ひとりにより細やかな信頼関係が確立できるよう努めています。また、インターンシップの紹介や学内業界セミナーの開催、資格・検定試験の支援などによりキャリア形成をサポートするほか、「キャリア支援アワー」では、履歴書・エントリーシート、筆記試験、面接対策、ビジネスマナー等、実践的なノウハウを学ぶ講座を展開しています。各種講座を開催しているほか、内定を得ている4年生から情報を得る報告会を行うなど多角的にサポートしています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

心身の健康、保健衛生等に係る相談等に適切に対応するためにカウンセリング等の指導相談体制を以下のとおり整備・実施しています。

[医務室]

保健師2名、看護師1名で、日常の応急処理・健康相談に対応しており、毎週木曜日の昼休みには学校医相談日を設けています。精神的な問題を抱えている学生については、学生相談室や支援に必要な部署と連携して支援を行っています。

毎年度4月には全学生を対象として定期健康診断を実施し、所見のあった学生については健康相談や受診勧奨を行っています。特に、新入生に対して

は、入学前に「健康管理カード」を提出させ入学後の体調管理に役立てています。

〔学生相談室〕

学生相談室には日常的に2名の臨床心理士が常駐し、学生の心身の健康に関する個別カウンセリング及びグループカウンセリングを実施しています。また、月に一度発達障害を専門とする小児精神科医が学生の相談にあたり、医療機関等への所見作成を含めたメンタルケアに携わっています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.rakuno.ac.jp/outline/disclose.html>